

# 『国立青少年教育施設の振興策に関する一考察』

## 民間集客施設の視点から

株式会社ATARAYO

関口 陽介

ATARAYO



2024年夏 初開催

## AI時代に備えて

親子で体験  
アート&クリエイティブ  
キャンプ

野外教育の専門家

関西学院大学 甲斐教授  
監修&現地指導



# コンテンツ開発①

◆消費者に関心の高い”アートセッション“



◆“大学品質の体験型講義”

親子・2泊3日で **¥132,000円**～(交通費含まず)  
@尼崎市立美方高原自然の家

## <大学品質のレクチャー>

野外教育の専門家、関西学院大学 甲斐教授が全プログラムを監修し、大学レベルのクオリティで、本企画の趣旨を参加者全員に共有。

保護者には、別途レクチャー時間を設け、今プログラムの活用の仕方や、帰宅後の子どもへの接し方、共有体験の重要性などを解説し、活発な質疑応答が展開。



## <プロフェッショナルアーティスト(喜多直人氏)によるアートセッション>

VUCA(変動・不確実・複雑・曖昧)の時代、これまでの論理的発想では、対応できません。正解の無い“問い”に向き合ったとき、力を発揮するのが“アート”です。

今回は、山中に海の漂着物を展開。アーティストの指導のもと、物語を創作します。物語は、絵に描かれ、文字で綴られ、自らプレゼンテーションすることによって、『表現』として完成します。

# Webマーケティング②

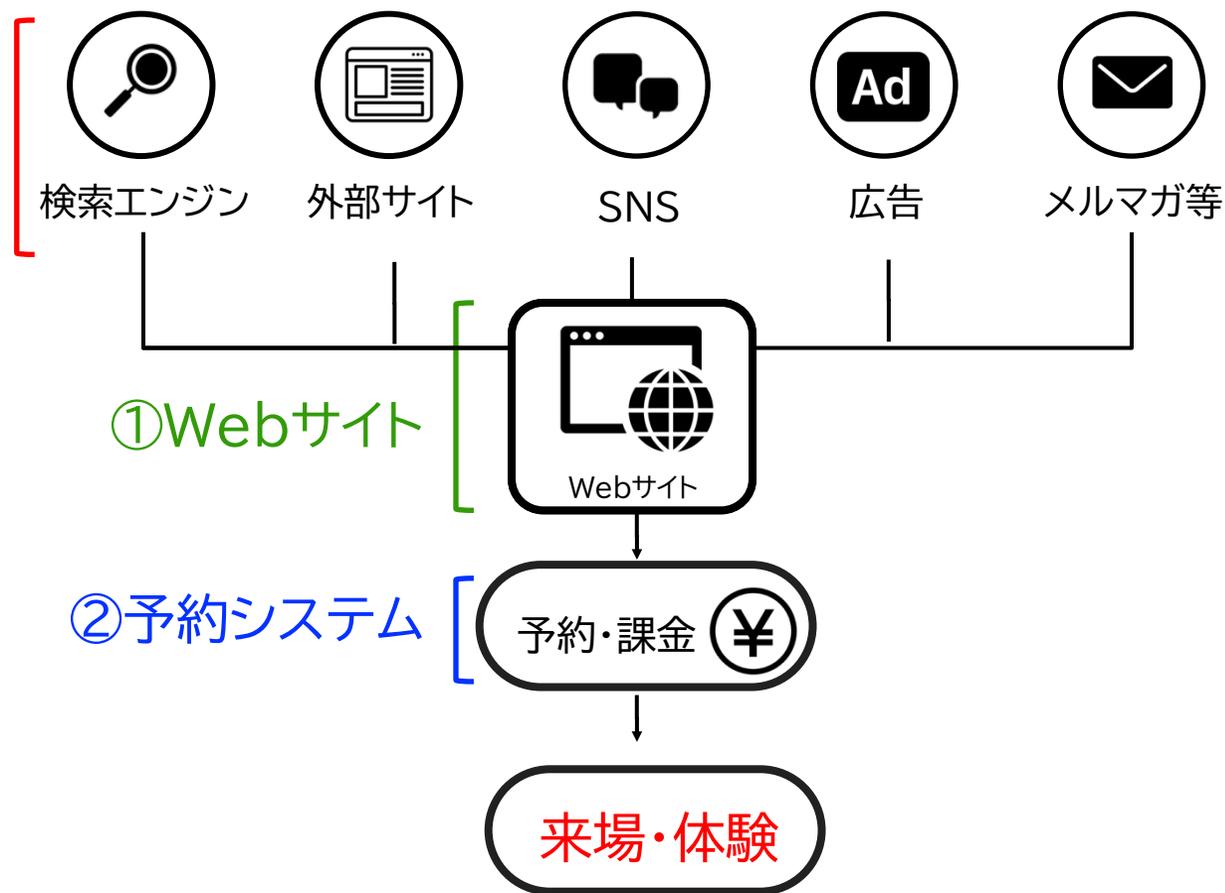
Webマーケティングの利点は、全ての施策が、**起点(認知)から終点(完了)まで、数値で効果検証できる**こと。



PR施策を実行し、魅力的なWebサイトへ導入し、予約システムで完結。

③PR施策

- 新聞・TV・ラジオ・雑誌などのマスメディア
- ネット媒体への露出



## 教育団体(小学校・幼稚園・保育園)へのアプローチ③

- ① メールや、電話でのコンタクトに対しては、基本的に対応しない。
- ② パンフレットなどの郵送物は、基本的にゴミ箱に直行。
- ③ 学校コンタクトは、授業時間帯を避けた、放課後で教員の帰宅前時間の16:00-18:00がゴールデンタイム。
- ④ 初回面談では、相手にされなくても、複数回の訪問で、話を聴いてくれるようになる。遠方ならなおさら。。。 (かなり昭和なスタイル)
- ⑤ 学校側の視点としては、基本的に、無料でのサービス提供が当然だと考えている。
- ⑥ 有料の場合は、その効果などに関し、エビデンス(効果測定の結果)等があると、理解されやすい。校内・園内折衝時、および、保護者への説明が求められることが多い。(例:これまでの実績報告書、アンケート結果や統計資料)
- ⑦ 校(園)内では、当然、校長が圧倒的な支配力を有しているので、最終的には、なんとか校長に食い込む。校長に理解されれば、多数校の校長が集まる校長会に紹介してもらい、そこで、資料配布、上手くすれば、プレゼンテーションを行う機会をねらえる。
- ⑧ 幼稚園・保育園にも、学校の校長会と同様の園長会があり、こちらもターゲットとしては有効。

- ⑨ 教育機関(学校・幼稚園・保育園)は主に、教員(保育士)研修を頻繁に行っており、この場を活用する戦略を練る。施設の営業説明のための時間は与えられないので、マーケティングやマネジメント研修等のコンテンツを開発し、その延長で、施設説明を行う。
- ⑩ 校内・園内のキーマンを押さえる。ときには、校長や園長、その他の学年主任や、校外学習担当など、やる気のある組織内人物を把握し、サポーターになってもらう。一度、心を開くことができれば、その後、校長への紹介・校長会でのプレゼン機会の調整、PTA協議、PTA会長との折衝など、次々と展開が拡大する。
- ⑪ 地元の学校・幼稚園で実績ができると、さらなる展開として、信頼感が醸成され、サッカー・野球チームや、子供会も、ターゲットになり得る。
- ⑫ 学校訪問する際は、1日4校程度の訪問を目指し、1校アポイント有り、3校アポなし訪問。結果的に1校対面打合せ、1校ご挨拶、2校門前払いくらいの覚悟で動く。
- ⑬ 都心部は、レンタルバイク(15分単位の課金)が有効。

とにかく足で稼ぐ  
“地道なドサ周り”



## 【ベネフィット・プラン】

- 組織イベント(研修会など)への利用
- 従業員の利用促進
- 授業員満足度の向上
- 貸し切り使用权の付与
- 社会・地域への貢献



出典； <https://www.kidzania.jp/tokyo/activity/courier-service.html>

## スポンサーシップ④

### 【協賛形態】

- パビリオン・プログラム提供
- 機材・食材・備品・ノウハウ・設備提供
- メディア・パートナー
- 入場券・施設利用券に関する協賛
- ネーミング・ライツ
- イベント協賛

# ホスピタリティ⑤

## あるエピソード



出典 ; <https://www.kidzania.jp/tokyo/activity/police-department.html>